

P1~3	企画展 百人一首かるたの世界
P4	ミニ企画展 小野神社の大般若経
P5	ミニ企画展 大津の仏教文化15 獅子・狛犬
P6	学芸員のノートから

企画展

百人一首かるたの世界

平成25(2013)年10月5日(土)~11月17日(日)



【現存最古の百人一首かるた】
道勝法親王筆百人一首歌かるた
滴翠美術館蔵

企画展
百人一首かるたの世界

平成25年10月5日(土)～11月17日(日)

近江神宮では、祭神の天智天皇が小倉百人一首の巻頭であることにちなみ、競技かるた日本一を競う新年の「かるた名人位・クイーン位決定戦」をはじめ、多くの全国大会が開催されています。

まさに、大津は競技かるたの聖地です。

百人一首かるたは当初、肉筆彩色で彩られた豪華なかるたが、公家や大名などの間で用いられましたが、木版をはじめとする印刷技術の発達とともに、庶民へと広がりました。本展では、現存最古の百人一首かるたをはじめ、商家や寺院に伝わる華やかなかるた、また、現代までの間に様々に変化した、多彩なかるたの数々を一堂に展示するものです。

では、今回の展示品の中から、いくつかご紹介しましょう。肉筆彩色のかるたとしてご紹介するのは、現存最古の百人一首かるたとして知られている、滴翠美術館所蔵の「道勝法親王筆百人一首歌かるた」です。また、洛東遺芳館に伝わる京都屈指の豪商であった那波家（那波屋）五代目九郎左衛門祐英の四女里代（1693～1762）が、同じく京都の豪商、柏原家（柏屋）四代目九右衛門光忠に嫁いだ際に、婚礼道具として持参した百人一首かるたなど、数多くの肉筆彩色のかるたを展示します。また、扇形や駒形など、ちょっと変わったかるたも紹介しますので、こちらも是非ご覧ください。

さらに、百人一首以外では、源氏物語や伊勢物語、古今和歌集などの和歌を記した「歌かるた」や、花鳥や獣などの札を合わせる「絵合わせかるた」があります。小倉百人一首以外にも、バリエーション豊かなかるたが制作されていたことがご理解いただけることでしょう。

百人一首かるたが普及する過程を紹介するコーナーでは、木版摺や版彩色かるた、また、おもに賭博用に制作された「むべ山かるた」など、江戸時代の様々なかるたを展示するとともに、近代以降に制作された百人一首かるたの数々もご覧いただけます。

最後は競技かるたのコーナーです。近代に始まった競技かるたは、戦前戦後の世相の中で、ルールや方法が整えられました。展示では、その変遷をたどるとともに、近年、競技かるたが注目されるきっかけとなった、漫画「ちはやふる」の貴重な原画もあわせて展示します。

百人一首かるたといえば、家庭において今も親しまれていますが、本展をご覧いただくことで、知っているようで、意外に知られていない百人一首かるたの歴史と魅力をお楽しみいただければ幸いです。

◆インフォメーション◆

主催／大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞社

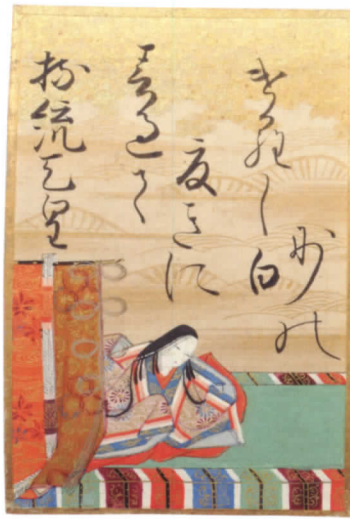
共催／NHK大津放送局 後援／近江神宮・BBCびわ湖放送・エフエム滋賀・エフエム京都

観覧料／一般：1,000円（800円） 高大生：500円（400円） 小中学生：無料

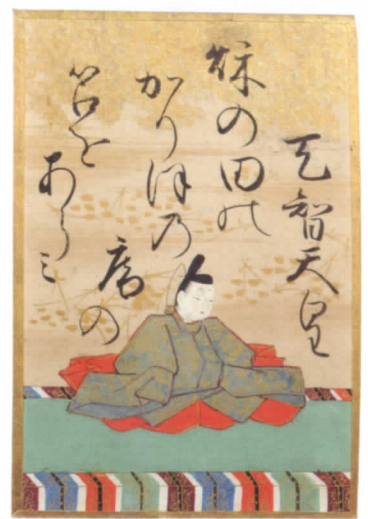
※（ ）内は前売、15名以上の団体、市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方の割引料金
休館日／月曜日（10月14日・11月4日を除く）、10月15日、11月5日



むべ山かるた 洛東遺芳館蔵



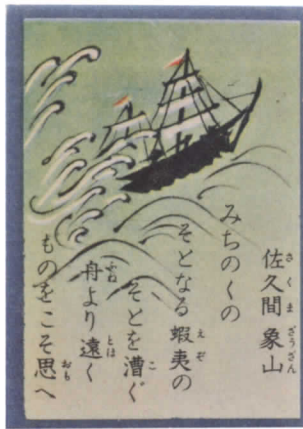
小倉百人一首歌かるた 洛東遺芳館蔵



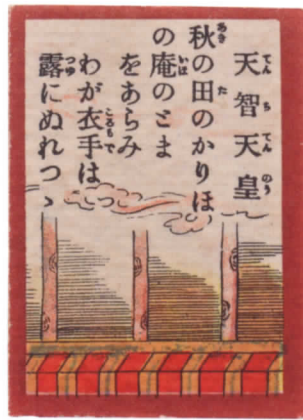
錦絵百人一首歌かるた 個人蔵



扇面小倉百人一首歌かるた
大牟田市立三池カルタ・
歴史資料館蔵



愛国百人一首 昭和17年
西澤笛畝画 個人蔵



御簾隠れ百人一首歌かるた 個人蔵

企画展
百人一首
かるたの世界



獣魚絵合わせかるた
原在中・原在明画 京都・靈鑑寺蔵



風流源氏歌かるた 葛飾北斎画
大牟田市立三池カルタ・歴史資料館蔵

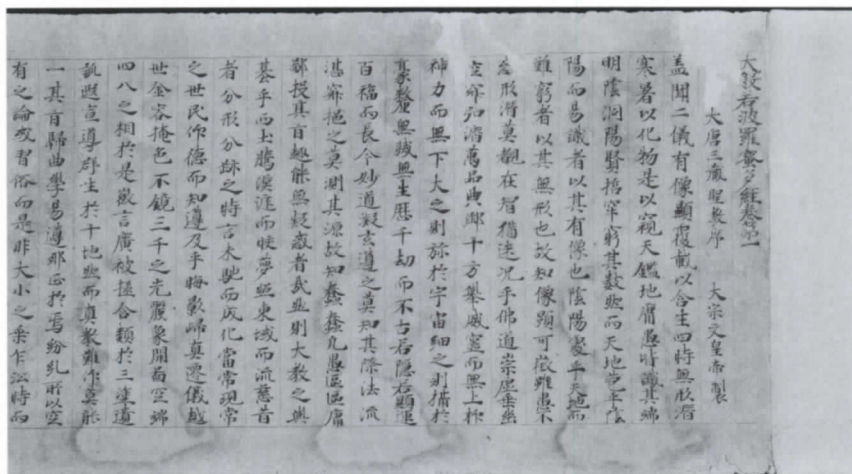


小野神社の大般若経

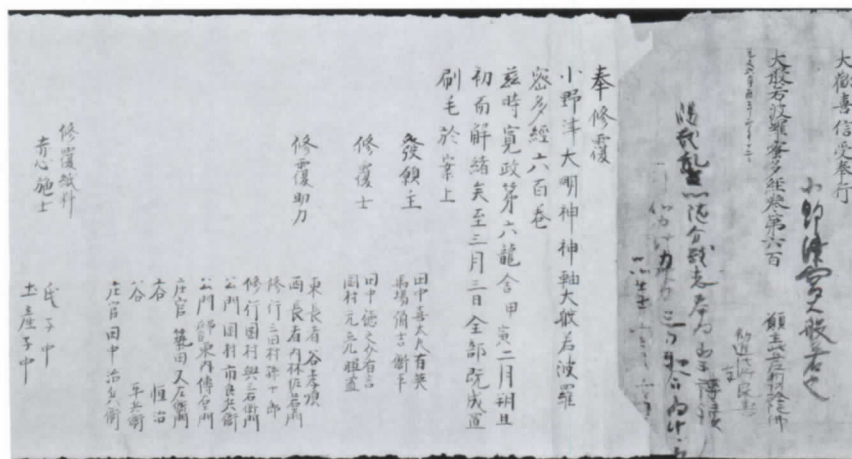
会期：平成25年11月19日（火）～平成26年1月19日（日）

大般若経は、大般若波羅蜜多経という、全 600 巻に及ぶ膨大な経典です。この経典は、法会において真読（省略しないで全部読むこと）もしくは転読（経題や初・中・終の部分省略して読むこと）され、平安・鎌倉時代以降、国家安泰や五穀豊穡を祈願する国家的行事に用いられ、また寺社においては荘園の存続を祈願するために用いられました。江戸時代になると、災難を除く呪力があると考えられて、虫払いや祈雨のための民俗的行事として地域の寺社でも行われてきました。

小野神社に伝わる大般若経は、平安時代に書写された経典を含み、納められた箱も貞治 6 年（1367）の墨書銘がある貴重なものです。また、江戸時代の修復銘は、当時の大般若経をめぐる地域と人の関わりを明らかにすることができる重要史料です。今回のミニ企画展では、そうした地域で守り伝えられてきた歴史を経典から紹介します。



巻第一 首巻



巻第六百 巻末・奥書

巻末・奥書に元文6年（1741）・寛政6年（1794）の修復記録と、関わった人々の名前が記されています。

大津の仏教文化15 獅子・狛犬

会期：平成26年1月21日（火）～3月16日（日）



木造獅子・狛犬 1対 鎌倉時代 葛川坊村町・地主神社蔵



大津市指定文化財 木造獅子・狛犬 1対 鎌倉時代 真野普門・神田神社蔵

神社に参拝した際、必ず目にするのが獅子・狛犬です。社殿の手前に神を護るように左右に安置されている石造のものをよく見かけますが、社殿内に木造の像が安置されていることも多くあります。一般に「狛犬」とだけ呼ばれることが多いのですが、角がある方を「狛犬」と呼び、無い像は「獅子」と呼ばれています。ですから、有角・無角の一对であれば、「獅子・狛犬」と呼んでいます。

大津市内には神社がたくさんあり、興味深い獅子・狛犬が多く現存しています。今回は市内に伝来する中世から近世にかけて造像された様々な形をした作例を紹介します。

琵琶湖岸に生まれた小字「高砂」

天保5年(1834)、江戸の町人大久保貞之助によって、琵琶湖岸に接した村々の地先に、「大久保新田」と呼ばれる新田が開発されました。この新田は、瀬田川の浚渫によって洪水を防ぐという計画と連動し、琵琶湖の水位低下によって生まれた土地を新田として掌握しようとしたものでした。

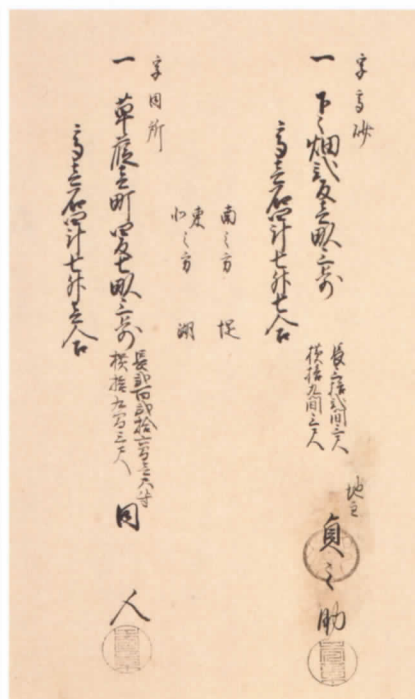
新田の数は判明しているだけで36カ所ありますが、この内「別所村地先大久保新田」「山上村地先大久保新田」「錦織村地先大久保新田」「南志賀村地先大久保新田」「下坂本村地先大久保新田」の5新田について、天保5年9月付けの検地帳が、尾花川親友会に伝えられています。検地帳には、一筆毎に土地の所在(字名)、等級・面積、敷地の縦・横の長さ、石高、敷地の南・東・北の状況が記され、名請人「貞之助」の名前と押印がなされています。山上村地先大久保新田を例にとると、下のようになります。

ここで興味深いのが、冒頭に見える「高砂」という字名です。というのは、尾花川親友会に残されている5新田の検地帳をみると、全ての字名が「高砂」となっているからです。字名は、その地域の歴史を探る手がかりとなるもので、大津京の所在地論争では、字名をめぐる議論が深まっていたのは有名な話です。

大久保新田の検地帳に記された字名の「高砂」は、謡曲から名前をとったものでした。琵琶湖の対岸、守山市でも大久保新田の開発が進められましたが、『守山市史』上巻によると、野洲川南岸の開発地でも謡曲から「高砂」「養老」「阿漕」「八島」「羽衣」「巻絹」「三輪」等を字名に付けたことが明らかとなっています。

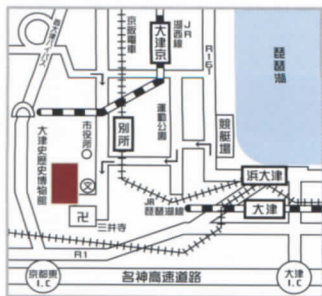
5新田につけられた「高砂」という字名は、おめでたい場で披露される演目ですが、大久保新田の前途は多難でした。というのは、開発者の大久保貞之助は翌天保6年に開発から手を引き、売りに出したからでした。その結果、5新田は尾花川が購入し、同所に検地帳が残されているのですが、字「高砂」が今も残っているのは、興味のあるところです。(当館副館長 杉江進)

(解読文(部分))
 字高砂
 一、下々畑式反舌歌三歩
 高青石四斗七升七合
 南の方 堤
 東の方 湖
 北の方
 長三拾貳間三尺
 横拾九間三尺
 地主 貞之助(印)



「近江国滋賀郡山上村地先大久保新田検地帳」
(尾花川親友会蔵)

ご利用案内



- 交通機関
 ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
 ・JR 大津駅 徒歩15分
 ・JR 大津駅、バス10分 別所下車
- 駐車場 約70台(無料)

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	210円	160円
高校生・大学生	150円	120円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
 祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
 年末年始(12月27日～1月5日)
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

— 歴博カードのご案内 —

当館主催の展示会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>